

## ボランティア活動からみる祭りの担い手の参加意識

——韓国「江陵端午祭」を中心に——

李 良 姫

### I. はじめに

地域で開催される祭りは、地域活性化や観光客集客のための大変有効な手段である。そのため、伝統的に開催されてきた祭り以外でも地域活性化を目的とした様々な祭りが開催されるようになった。韓国では古くから伝えられてきた祭りの多くは消滅と衰退を余儀なくされたが、1995年地方自治体制が実施されたことにより観光資源としての新しい祭りが開催されるようになった。それにより地方自治体が主催する祭りが多くなり、本来の担い手である地域住民が主体となって開催される祭りは少なくなった。こうした中で、韓国では珍しく、現在も地域の住民が主体となって開催されている、古くから伝承されてきた祭りが本研究で取り上げた「江陵端午祭」である。

筆者は、1998年から2014年まで合計5回江陵端午祭に参加し参与観察を行った。加えて、祭りの主催者、ボランティアなど様々な分野で祭りを支えている祭りの担い手にインタビュー調査を行った。また、2014年5月31日から6月7日まで開催された江陵端午祭に参加し、ボランティアを対象に参加動機及び満足度に関するアンケート調査を実施した。

ボランティア祭り参加者の満足度に関する論文を発表したジョン・ヨン Chol は、韓国におけるボランティア活動は、1986年アジア大会及び1988年オリンピックを契機に活性化され始め、1990年代半ば以降、民間ボランティア組織の設立、1995年に行われた教育改革以降、中高生のボランティア活動が学生生活記録簿に記録、大学生のボランティア活動が単位化されるなど社会の変化によりボランティア活動が定着するようになったとしている<sup>1</sup>。大型スポーツイベントの開催におけるボランティア活動の必要性の認識が高まったことがボランティア活動を定着させる要因になったのだろう。韓国社会で広がりつつある障害者や高齢者に対する福祉分野をはじめ、青少年教育、地域安全など様々な分野でのボランティア活動が活発になった。

また、多くの人が集まる祭りなどの地域のイベントにもボランティアの参加が必要になった。前述したように、祭り開催が地域活性化や観光客集客に有効であるため、祭りに関する研究も多く、年間を通して祭りに関する論文が多数出されるようになった。筆者も、「韓国における食祭りの現状と課題」、「地域イベント参加満足度に関する研究－韓国固城エキスポを事例に」、「祭りの創出・観光資源化の成功要因と課題－韓国咸平郡「蝶々祭り」を中心に－」を発表している<sup>2</sup>。一方、祭りのボランティア参加に関する論文は数少なく、祭り関連研究者が祭りに参加するボランティアに目を向けるのも遅かった。それには、「地域の祭りにおけるボランティアは祭りの主要な構成要素であり、これらに関する学術的な論議が必要にもかかわらず、先行研究ではこのような論議がなされていなかったのは、ボランティアの役割が持つ重要性に対する認識不足から起因しているように思える」とする主張も出されている<sup>3</sup>。

近年になってからは、祭りのボランティア活動に関する論文も出されるようになった。ジョン・ヨンチョルは「文化祭りボランティアの活動領域別満足度に関する研究」で、韓国伝統紙をテーマにした「韓紙文化祭」の事例をあげ、韓紙文化祭は市民団体が中心になり大学、高校生のボランティアと韓紙職人、一般市民を活用した祭りであるとしている。また、ボランティアの専門的な管理と各々の参加動機及び期待を正確に理解し、支援し、管理できる専門人材の要請が必要だと主張している<sup>4</sup>。その他、キム・ミンジュ、オ・スヨンの「地域祭りボランティアの参加満足及び再参加に与える影響要因」やリュ・インピョン、シム・ウソクの「祭りボランティアの人的サービス品質が参加者の態度及び行動意図に与える影響」などがボランティアの参加に関する論文である。

本研究では、2005年ユネスコが指定する世界文化遺産に登録された韓国では数少ない伝統祭りである「江陵端午祭」のボランティア参加者にアンケートを実施し、参加動機及び満足度を分析した。その結果から祭りにおけるボランティアの活用の課題を述べた上で、より効果的なボランティアの活用のあり方について提示することを本研究の目的とする。

## II. 江陵端午祭の概要

江陵端午祭が開催される江陵市は韓国江原道東北部に位置し、海と山に囲まれ、農水産物が豊かな地域である。このような地理的背景から豊作を祈願する「山神祭」と豊漁を祈願する「豊漁祭」が開催されていた。江陵端午祭は豊作豊漁を祈願する地域文化行事として現在まで伝承されてきた<sup>5</sup>。

旧暦の端午の日5月5日の前後に5月から6月の約1ヶ月間行われ、祭礼や「グッ」という巫女による歌や踊りが披露される。江陵市から西側にある大關嶺峠に祭られている國師城隍神と大關嶺國師女城隍神が祭りの神である。その上、新羅の名将であったキムユシンを神格し同時に祀っている。

江陵端午祭は、儒教的な儀礼と同時にムーダンといわれるシャーマンのような存在による祭りの儀式が大変重要な役割を果たしている。ムーダンは神に祈願するとされる「グッ」を行う。このグッでは、ムーダンが踊りや歌、語りなどに合わせてドラや手持ち鉦などを演奏する。筆者は、日本における石見、北広島、高千穂の神楽は、祀る対象や担い手は異なるにしても、韓国のグッと類似している部分が多いと思った。江陵端午祭では、このグッが祭りの始まりから終わりまで行われ、このグッの鑑賞を目的に訪れる参加者も多い。

江陵端午祭で特徴的なことは、祭り会場に市場が立つことである。市場では、布団などの生活用品をはじめ、健康食品など、扱う商品は多様である。江陵市民は端午祭で必要な商品を買うのが習慣化されている。日本の祭り会場においても生活用品や農機具を販売していることもあるが、江陵端午祭の市場の規模は大変大きなものとなっている。

このように、江陵端午祭は江陵市民にとっては年中行事のひとつでもあり、生活の中に根付いている特別な祭りである。もちろん江陵市民のみではなく、祭りを楽しむため他地域からも多くの人を訪れている。

### Ⅲ. 江陵端午祭におけるボランティアの参加意識

#### 1. アンケート概要

アンケート調査は、江陵端午祭にボランティアとして参加した51名を対象に祭り期間中である2014年5月31日から6月7日の間に行った。アンケート用紙を配布し、その場で記載してもらい回収した。その内、男性は20名、女性は31名であった。職業別では、学生が26名、主婦が9名、現役の公務員が4名、退職公務員が1名、自営業が3名、教員が1名、無職が3名となっている。女性と学生、主婦が多い理由としては、祭り期間に平日が含まれることがあげられる。年代別では、10代が14名、20代が8名、30代が4名、40代が11名、50代が7名、60代以上が6名となっている。参加者のほとんどは地元の居住者であった。

表1 回答者属性

区分	項目	人数	%	区分	項目	人数	%
性別	男性	20	39	職業	学生	26	51
	女性	31	61		主婦	9	17
合計		51	100		公務員	4	8
年代	10代	14	28		自営業	3	6
	20代	8	16		無職	3	6
	30代	4	8		会社員	1	2
	40代	11	22		退職公務員	1	2
	50代	7	14		教員	1	2
	60代以上	6	12		その他	3	6

#### 2. 参加動機

アンケートの質問項目の作成は、キム・ミンジュ、オ・スヨンの「地域祭りボランティアの参加満足及び再参加に与える影響要因」論文で使用された「参加動機」と「業務」満足が再参加に与える影響要因について分析した質問項目を参考に作成した<sup>6</sup>。加えて、祭りの参加意識を調査するために必要な追加項目を設定したものである。

まず、参加動機においては、表2で表れているように、人間関係に関連する項目で「他の人と一緒に仕事をするのが楽しいから」が高い割合を占めている。また、「新しく知り合った人と一緒に仕事ができるから」が高くなっている。「多様な人間関係を結ぶことができるから」を含めて、仲間や新しく知り合った人と一緒に奉仕できる楽しみから参加する動機が伺える。

経験や知識の習得面においては、学生が多いことから「多様な経験が積めるから」が高い割合になっている。「自身の能力（外国語を含む）の向上」や「自身の能力（外国語の能力を含む）の活用」などは低い。「ストレス解消」や「生活の活力を取り戻す」は低くなっている。一方、日常の単調さから逸脱するための割合が高い。祭りに対する魅力も、「無料で祭りを楽しめるから」、「近い距離から祭りが楽しめるから」、「ボランティアに対する特典が魅力的だから」、「祭りが好きだから」なども低い割合である。一方、「江陵端午祭は韓国の伝統文化だから」、「江陵端午祭は江陵の自慢だから」、「江陵端午祭は江陵の伝統文化だから」の割合は高く、その中でも「江陵端午祭は江陵の自慢だから」が高い割合を示している。こうしたことか

表2 ボランティア参加動機

単位：名

項目	全くそう 思わない	そう 思わない	普通	そう思う	とても そう思う
1. 多様な人間関係を結ぶことができるから	1	1	9	30	10
2. 他の人と一緒に仕事をするのが楽しいから	0	0	9	24	18
3. 新しく知り合った人と一緒に仕事ができる	0	1	9	26	15
4. 多様な経験が積めるから	0	0	3	33	15
5. 新しい知識を習得することができるから	1	3	9	27	11
6. 多様なテーマに関する情報が得られるから	0	2	10	29	10
7. ストレスが解消できるから	4	5	16	20	6
8. 生活の活力を取り戻せるから	1	4	15	22	9
9. 日常の単調さから逸脱できるから	1	0	11	30	9
10. 自身の能力（外国語を含む）の向上	3	8	15	14	11
11. 自身の能力（外国語の能力を含む）の活用	2	5	20	13	10
12. 無料で祭りを楽しめるから	4	8	18	15	6
13. 近い距離から祭りが楽しめるから	1	8	11	17	13
14. ボランティアに対する特典が魅力だから	9	6	14	14	8
15. 祭りが好きだから	1	1	21	15	12
16. 江陵端午祭は韓国の伝統文化だから	0	0	9	20	22
17. 江陵端午祭は江陵の自慢だから	0	2	3	21	25
18. 江陵端午祭は江陵の伝統文化だから	0	1	5	20	25

ら、多様な経験が積めることが参加理由ではあるが、自分の能力の向上や活用をボランティア参加の理由にしている割合は低いことがわかった。また、祭りそのものに対する魅力よりは、江陵端午祭に対する誇りや愛着があることが明らかになった。

### 3. 参加回数・参加傾向・情報元

「江陵端午祭ボランティアに何回参加されたか」では、「初めて参加」が17名で最も多く、男性は5名、女性が12名で、年代別では、10代が5名、20代が5名、30代が4名、40代3名となっている。女性と若い年代で初めて参加するケースが多かった。一方、50代及び60代以上では「毎年参加」の12名の中で各々5名と3名で8名を占めている。加えて、40代が3名、10代が1名となっていることから、中高年層では毎年参加することが多く、継続して参加する傾向が見られる。

「他の祭りのボランティアとして参加したことがある」では、「参加したことがない」が19名で、10代が7名、20代が2名、30代が4名、40代が6名となっている。また、「1回」が6名、「2回」が6名、「3回」が3名、「4回以上」が13名となっている。4回以上を年代別で見ると、60代が4名、50代が5名、40代が1名、10代が2名となっている。参加者の63%が江陵端午祭以外の祭りのボランティアに参加したことがあり、高年代層で参加回数が多い傾向がみられた。「ボランティアではなく江陵端午祭を見学したことがある」のなかに対しては「見学したことがない」は2名のみで「4回以上」は33名となっており、江陵端午祭が身近なものであることは確かである。「ボランティアはどなたと一緒に参加したか」では、「友人・同僚」が最も多く24名で、「家族・親族」も14名と次ぐ。「同好会・集まり」では5名であり、

インタビュー調査で「ボランティア婦人会」という組織が地域で結成されていることが分かった。「募集に関する情報収集方法」としては、「周囲の人」からが23名で「インターネット」19名となっており、その他で、「ボランティアセンター」や「学校」、「ボランティアサークル」で情報を得るなどがあった。江陵端午祭のボランティア活動のすべての募集・教育・運営・管理は「江陵ボランティアセンター」が行っている。

#### 4. 担当業務・満足度・再参加意向・観光客に対する意識

担当業務や業務に対する満足度は以下の通りになっている。「担当分野」では、「案内」が20名で「プログラム進行」が7名、「通訳」9名、「事務支援」が1名、「行政支援」が4名となっており、その他14名は、「清掃」や「祭り解説」、「片付け」、「ゴミ収集」、「運営のヘルプ」、「体験教室プログラム担当」などがあった。祭りの多様な分野を担っていることがわかった。

「ボランティア活動の中で最も満足したこと」に関する質問では、「訪問客との交流」が27名で、「ボランティア同僚との交流」が22名となっている。「最も大変だったこと」では、「ボランティア日程」が21名となっており、その他では「大変と思っていない」という答えが多かった。また、「立ちっぱなし」、「交通アクセス」、「外国人の対応」、「同僚ボランティアの意識不足」をあげている。「ボランティア再参加意向」に関しては、「必ず参加する」と「参加する」が43名で、「状況を見て参加する」が7人で、一人のみが「参加しない」だったが、その理由として「もう10年も参加している」といったことをあげていることから、ほとんどの人が再参加を希望していることがわかった。「周りにボランティア参加を薦める」も同様で、ほとんどの参加者が「薦める」と答えている。本調査では、「江陵端午祭に他の地域から観光客が参加することについてどう思うか」についての項目を設けたが、「誇らしい」が32名、「歓迎」が18名と外部からの観光客を歓迎する傾向があることがわかった。

表3のように、担当業務全般についての質問を行った。その結果、「業務遂行のための同僚

表3 参加満足度

単位：名

項目	全くそう 思わない	そう 思わない	普通	そう思う	とても そう思う
1. 管理者は業務を効率的に行った	0	1	18	22	10
2. 業務の遂行に対する管理者の支援は適切だった	0	4	15	27	5
3. 業務遂行のための事前教育は適切だった	0	1	20	21	8
4. 効率的な業務遂行のための情報提供は適切	1	2	17	25	6
5. 業務を遂行する場所の物理的環境は良好だった	1	2	20	21	7
6. 業務選択また業務の割り当て方法に満足する	1	1	20	21	8
7. 任された業務量は適切だった	0	1	17	22	11
8. 担当した業務に興味があった	2	1	12	21	15
9. 担当した業務は適性に合った	2	0	13	23	13
10. 業務遂行のための同僚との協調は良かった	0	0	7	31	13
11. 担当した業務は祭りの重要な役割を果たす	1	1	15	26	8
12. 担当した業務は私の能力に良く合う	1	3	10	22	15
13. 担当した業務に対して適切な権限があった	1	5	15	23	7

との協調」に対しては、評価が高い反面、「担当した業務に対して適切な権限」や「業務を遂行する場所の物理的環境」、「業務選択また業務の割り当て方法」の評価の割合は低かった。

最後に、「江陵端午祭に関する意見や感想」に関する自由記述では、以下の内容があった。「自発的で持続的なボランティア活動が必要」、「ボランティア運営を計画的に行うべき」、「他の地域からのボランティアの参加を希望」などボランティアの運営に関する改善点をあげるものがあった。さらに、「楽しかった」、「とても楽しかった」、「楽しくて良かった」など参加して楽しかった意見と、「有意義で幸せな経験だった」、「大変有意義な時間だった」、「いろいろな見所があって良かった」、「忘れられない大切な経験だった」、「また必ず参加したい経験」、「端午祭に参加でき大変有意義な経験だった」など有意義な経験であったという感想も多かった。

また、「江陵市民としての誇りを持つことができた」、「仲間と一緒にボランティア活動ができて良かった」、「やりがいのあるボランティアだったのでこれからも家族と一緒に参加したい」という意見がみられた。一方、「大変だったが楽しくてやりがいがあった」、「大変だった」、「とても大変だった」「座るところもなく立ちっぱなしだった」の意見もあった。

#### IV. 終わりに

韓国の伝統祭りの衰退や消滅の要因のひとつは全国民の30%にも達する信徒を持つキリスト教をあげることができる。仏教や民間信仰が元になっていることが多い韓国の伝統的な祭りの開催に反対していることも影響を与えているといえる。実際に、キリスト教の信徒であるクリスチャンは韓国の伝統的な祭りに参加しない上、祭りを妨害した事例も出されている。一方、江陵端午祭にはクリスチャンも多く参加している。

本アンケート調査では宗教の記入欄はなかったが、筆者が行ったインタビューの調査結果、多くのクリスチャンがボランティア活動に参加していた。それは、江陵端午祭がもつ文化的な要素が強いからであろう。江陵市民にとって江陵端午祭は宗教を超えた特別なものであることがいえる。

アンケート結果、多様な経験と仲間との交流、江陵端午祭が持つ伝統文化としての誇りがボランティア参加動機になっていた。また、祭りに対する満足度は高い反面、業務に対する権限がないことや業務内容に関しては不満の声もあった。

キム・ミンジュ、オ・スヨン、は、「祭りボランティアの専門的な説明を通し有意義な情報提供及び信頼を与える表現が訪問客に良い印象を与える」とし、またボランティアの良い態度及び印象が再訪問を希望する要素となるため、ボランティアの信頼性と専門性の確保が重要であるとしている。そのため、事前にボランティアに対するサービス教育をする場合に重要視すべきことは、訪問客に信頼を与える専門的な情報、提供教育能力の強化が必要」であるとしている<sup>7</sup>。筆者も祭り会場でボランティアにプログラムや会場アクセス方法などについて質問をすると、答えられないことが多くみうけられた。ボランティアが信頼されるように適切な教育が必要になる。

江陵端午祭は100万人の人が祭り会場を訪れる。また、食の提供や花火など多くの人が一斉に集まるプログラムも多くある。そのため、ボランティアに課せられた役割が大きい。信頼を与えるためのボランティアの教育と活用が必要であろう。

今後は、日本の類似した祭りのボランティア参加意識を調査、日韓比較を行うことで両国の祭りに対する参加者の認識を比較し、伝統文化の担い手のあり方を提示していきたい。

#### 参考文献

- イ・ジョンジン、キム・チャンス、キム・ジョンファン（2013）『韓国祭り 50 選』大旺社
- キム・ミンジュ、オ・スヨン（2006）「地域祭りボランティアの参加満足及び再参加に与える影響要因」『イベントコンベンション研究』第 2 巻第 3 号（通巻第 5 号） pp.1-19。
- 李 良姫（2008）「地域イベント参加満足度に関する研究－韓国固城エキスポを事例に－」『日本地域政策研究』第 6 号， pp.329-336。
- 李 良姫（2009）「韓国における食祭りの現状と課題」『大阪観光大学観光学研究所所報』13 号， pp.25-33。
- 李 良姫（2014）「祭りの創出・観光資源化の成功要因と課題－韓国咸平郡「蝶々祭り」を中心に－」『日本地域政策研究』第 12 号， pp.69-76。
- ジョン・ヨンチョル（2005）「文化祭りボランティアの活動領域別満足度に関する研究」『尚志嶺西大学論文集』第 25 集， pp.31-56。
- リュ・インピョン、シムウソク（2013）「祭りボランティアの人的サービス品質が参加者の態度及び行動意図に与える影響」『Tourism Research』38 巻 4 号， pp.297-316。

#### 注

- 1 ジョン・ヨンチョル（2005） p.31。
- 2 李 良姫（2008）（2009）（2014）
- 3 キム・ミンジュ、オ・スヨン（2006） p.3。
- 4 ジョン・ヨンチョル（2005） pp.54-55。
- 5 イ・ジョンジン、キム・チャンス、キム・ジョンファン（2013） pp.18-19。
- 6 リュ・インピョン、シム・ウソク（2013） p.311。
- 7 キム・ミンジュ、オ・スヨン（2006） p.11。

#### 参考 URL

- （社）江陵端午祭委員会 HP 2014 年 6 月 16 日アクセス  
<http://www.danojefestival.or.kr/contents.asp?page=364>
- 江陵端午祭ボランティアセンター HP 2014 年 6 月 16 日アクセス  
<http://nanum.gangneung.gangwon.kr/>

#### 【謝辞】

本研究は、科学研究助成事業（「祭りの再生と観光資源化プロセスの日韓比較」、研究代表者李良姫、課題番号 24611031）の助成を受けたものであります。なお、調査にご協力をいただいた、KBS 江陵放送局の姜 元瑚部長、江陵市ボランティアセンターの金 ソンジョン所長、栗谷中学校の朴 載光先生に感謝申し上げます。